

近現代美術に関する交流史的研究 (①企03-11-1/5)

目 的

日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

成 果

1. 東アジア諸地域の近現代美術の研究資料収集、整理として以下の4件を行うことが出来た。
 - (1) 黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を進め863件の書簡を画像化した。また「藤島武二・岡田三郎助展」(三重県立美術館他)、「森岡柳蔵展」(鳥取県立博物館)開催のための調査に協力し、関連する黒田宛書簡の画像化を行った。
 - (2) 矢代幸雄筆ベレンソン宛書簡59通のうち42通の翻刻を行った。
 - (3) 当所所蔵の貴重資料『黒田清輝遺作展目録』、白馬会展目録等のデジタル画像作成を行った。
 - (4) 日本近代の西洋美術受容に関する調査研究およびアジア地域における美術交流に関する調査研究を行った。今年度は特に台湾の近代美術との交流を中心に調査を進めた。
2. 我国の現代美術の動向に関する調査研究としては、以下を行った。
 - (1) 笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。
 - (2) 当所所蔵の画廊資料の画廊別による整理とカード化を行った。

論文

- ・田中淳「中川一政の芸術の糧となった愛蔵品—日本近代のゴッホ受容と関連して」『没後20年記念展 中川一政が愛した芸術』展図録 pp.1-6 真鶴町立中川一政美術館 11.9
- ・田中淳「創作と評価—萬鉄五郎《風船を持つ女》を中心に—」『美術研究』405 pp.15-24 12.1
- ・山梨絵美子「美術教育者としての黒田清輝の一面—内弟子森岡柳造という受容者を通して」『森岡柳造展』図録 pp.8-11 鳥取県立博物館 11.4

研究組織

○山梨絵美子、田中淳、塩谷純、中村明子(以上、企画情報部)、三上豊、丸川雄三(以上、客員研究員)